

日本学術会議 化学委員会
有機化学分科会（第26期・第6回） 議事要旨

日 時 令和8年4月10日（金）17:00～18:30

会 場 日本学術会議6階会議室6-C(1)及びオンライン会議（Zoom）

出席者（名簿順）

現地：石原 一彰・高柳 大・眞鍋 史乃・山子 茂・山下 誠・矢島 知子

オンライン：安藤 香織・磯部 寛之・尾坂 格・澤村 正也・茶谷 直人・徳山 英利・

中島 裕美子・中西 和嘉・庭山 聡美・山口 茂弘

欠席：内山 真伸・小川 智・寺田 眞浩・山田 容子

書記：山下 誠

オンラインの出席者をカウントするかどうかを発議・賛成多数で成立。

石原委員長の議事進行のもと、以下の議題について議論した。

議 題

（1）有機化学の将来展望（10年後）についての意見交換

（化学、とりわけ有機化学分野の国際状況、今後の連携、新しい分野など。キーワード：環境、エネルギー、元素戦略、新反応、新物質、AI など。）

(i) 有機化学が進むべき道（成熟しつつある有機化学が向かう方向性について考える。例えば、純粋な有機化学から融合領域へ。有機化学の未踏領域。）

(ii) 有機化学の魅力と重要度（他分野に貢献できる学問であることが重要。若者が有機化学に興味をもつには？）

有機化学の将来展望と新しいキーワードの検討について議論が行った。会議の主催者は、有機化学が成熟した分野である中で、新しい概念やキーワードの創出が必要であることを提起し、参加した委員一人一人に意見を求めた。参加者たちは、量子技術との融合、物質循環、環境対応、元素戦略、AI の活用などの新しい分野について議論し、有機化学が他の分野と融合して新しい可能性を創出する重要性を強調した。

（2）その他

アメリカ化学会の Japanese Chapter について（庭山）：庭山委員はアメリカ化学会の日本支部設立について相談し、国際的な研究連携の強化が必要であることを提案した。議論の結果、あくまでアメリカ化学会の課題であることから、この案件を日本学術会議で取り扱わないこととした。

以上